

## 第39回函南町駅伝大会 青空の下タスキをつなぐ



▲タスキを次の走者に渡す様子

2月1日、第39回函南町駅伝大会が開催されました。

駅伝大会には、一般の部19チーム、中学生男子の部25チーム、中学生女子の部13チーム、合計57チームが参加。

今大会はコースを変更し、かなみスポーツ公園をスタートし、丹那盆地周辺の山間地や柏谷公園近くの市街地を駆け抜けて、東中学校グラウンドのゴールを目指して町内6区間20.5kmをタスキでつなぎました。

選手たちの力強い走りに、沿道からたくさんの声援が送られました。

## 文化財保護と地域防災の連携強化 かなみ仏の里美術館で防災訓練

2月3日、かなみ仏の里美術館で第61回文化財防火デーにあわせ、防災訓練が行われました。

防災訓練には、美術館職員、ボランティアガイド、函南町消防団、田方北消防署、役場消防隊など約60人が参加。伊豆北部を中心とする地震が発生し、同美術館の機械室から出火したと想定。また、地震で消火栓が使えないことを考慮し、近くの河川や10トンの水槽車から吸水し、放水しました。

同館美術館の職員は、館内の客を避難させたり、重要文化財を持ち出したりして有事の際の避難方法などを確認しました。



▲火災を想定して美術館へ放水する消防署員、消防団員

## 節分に豆まき おにをやっつけろー!!



▲鬼に向かって豆を投げる園児(西部保育園)

2月3日は節分です。節分とは、季節が分かれる日という意味で、一般的には立春の前日です。季節の変わり目には邪気が生じるという考えから、鬼を払う儀式として豆まきが行われているとのこと。

同日、町内の幼稚園・保育園では、節分にちなんで豆まきが行われました。

西部保育園では、鬼のお面や豆入れの容器を事前に作成し、「みんなの心の中にいるいろんな鬼をやっつけよう。」と節分に備えました。

当日、鬼が登場すると泣きさけぶ子や鬼を追いかける子などさまざまでしたが、ほとんどの園児は「おにはそとー!」と、豆を投げて鬼を退治していました。

## 研究の概要を発表 幼・小・中6教諭に教育研究奨励賞



▲渡邊教育委員長から表彰される受賞者(写真左)

1月22日、函南町役場で平成26年度函南町教育研究奨励賞授与式が行われました。

授与式には、教育委員や奨励賞検討委員など26人が参加。受賞者は、渡邊教育委員長から表彰を受け、「児童の体力づくりの推進」「生徒会活動の活性化策」「かわり合う授業づくり」「友達のかかわり合い」などについて、各教諭1人10分程度それぞれの研究発表を行いました。

潮木教育長は、受賞者に「今回の研究を生かし、地域や同僚からますます信頼を得て、今後更に活躍することを期待しています。」とお祝いの言葉を述べました。

## 広域で連携態勢を確認 集団災害対応合同訓練

1月24日、函南町、伊豆の国市、伊豆市の3会場で集団災害対応合同訓練が行われました。

同訓練には、消防関係者、自衛隊、警察、医師会、自治体職員など約300人が参加。

南海トラフ巨大地震が発生し、土砂災害で孤立地域や負傷者が多数発生したという想定。かなみスポーツ公園に合同指揮本部を設置して、被災情報などの収集、ドクターヘリによる患者の搬送態勢の確認、医師会や保健師らによる負傷者の治療優先順位を判断するトリアージが行われ、有事の際の連携確認を行いました。



▲医師会、保健師などが協力してトリアージ訓練を行いました

## ボールを蹴って親睦をはかる かなみサッカーPKフェスティバル



▲ボールを蹴り込む参加者

1月25日、かなみスポーツ公園で第12回かなみサッカーPKフェスティバルが開催されました。

PKフェスティバルには、小学生以下のキッズの部から一般の部まで6部門に町内外から81チーム約450人が出場し、頂点を目指してボールをゴールに蹴り込みました。

同大会は、PKを通じてサッカー競技の振興と親睦を図ることを目的に開催していて、今大会からかなみスポーツ公園を使用しています。参加者は、シュートの結果に一喜一憂し、ゴールが決まると全員で祝福し合いました。